



優しく遅く

令和 7年 7月 17日
市川市立第六中学校
校長 河合 滋



失敗から学ばせる

人生において失敗から学ぶことはとても多く、貴重な体験となります。現代はSNSやネット等で様々なことを検索し、事前に上手くいくやり方を学んでしまいます。それは便利なことではありますが、実際にやってみたときに、上手くいかない（失敗する）ことがあります。その失敗こそが貴重な体験だと思います。

子育てにおいて、自分の子を思うあまりに子離れできない親の話を耳にします。親が子を思う気持ちは誰も同じで、尊いものです。しかし、適切な時期に適度に子離れをしないと、子どもは主体性を持てず、いつまでも親や他人に依存してしまいます。また、失敗や挫折に対し耐性が弱く、自分に自信を持てない等、心のたくましい人間に成長することは、難しくなってしまうかもしれません。

私（校長）も、これまで数多くの失敗をしてきました。失敗したからこそ成長できたことはたくさんあります。保護者の方もそうではないでしょうか。しかし、どうしても自分の子どものことになると、失敗させないように手や口を出してしまうものです。そこで、子どもが失敗から成長するポイントをいくつか紹介します。



- ・子どもが失敗しても責めず、見守る。本当に困ったときに助ける。
- ・短期的に判断せず、長期的な視点で見る。（長い目で見る）
- ・子どもに期待を押し付けない。日常の小さな変化、成長に目を向ける。
- ・親やきょうだいとは別人格で、一人の人権を持っていることを認める。（比べない）
- ・見放すのではなく、信じて見守る。子どもが話して来たら、とことん話を聞く。



「私は9,000回以上のシュートを外し、300試合に敗れています。決勝シュートを任せられて26回も外した。人生で何度も失敗したからこそ今の成功がある」
(マイケル・ジョーダン)



学校評価アンケート



1学期末に学校評価アンケートを実施しました。今回は約80%の保護者の方から回答をいただきました。回答率が高いことも、一つの大きな評価だと受け止め、これからの学校経営に活かしてまいります。ご協力ありがとうございました。今回は同意味の質問に対して保護者、生徒、教職員の回答の比較と分析をしました。

令和7年度 学校評価アンケート

4：そう思う 3：ややそう思う 2：あまりそう思わない 1：そう思わない

7年6月実施

評価項目	肯定的評価			※評価4と3の合計% 考察
	生徒	保護者	教職員	
	469	441	31	
1 友だちの良いところを見つけることができる。	96%	89%	84%	昨年同様9割を超える生徒が肯定的で、友人関係が良好であることがうかがえる。
2 目標を持って学習したり、生活したりしている。	80%	71%	90%	年度初めということもあり、教職員の肯定的意見が多い。常に生徒に明確な目標を持たせていきたい。
3 調べたいことやわからないことを自分から調べるなど、色々なことに興味を持って学習に取り組んでいる。	68%	57%	71%	いろいろなことに興味関心を持つことが学びの始まりである。日頃から自分で調べる習慣を持たせたい。
4 日頃から読書に親しんだり、図書資料を使って調べ学習をしたりしている。	46%	29%	68%	今年度から朝読書に全校で取り組んでいる割には低評価。引き続き読書活動及び図書館活用に取り組む。
5 日々の学習で、タブレットを活用している。（4：ほぼ毎日 3：週2～3日 2：週1日 1：していない）	66%	24%	55%	授業中でのタブレット活用は多くみられるが、ドリルパークや学習課題等、家庭学習での活用を推進していく。
6 日頃から運動やスポーツに親しんでいる。	73%	75%	90%	前期は体育祭や部活動の大会などが多くあり、評価は高めである。
7 給食では、栄養やマナーなどを意識して食べている。	81%	81%	65%	給食に対する生徒の意識が高い。バランスよくしっかりと食べるなど食育を大切にしていく。
8 学校の活動で、地域の方たちと共に学ぶ機会がある。	25%	78%	81%	学校運営協議会で、生徒と地域の方とで懇談した。引き続きボランティア活動を推奨していく。
9 困ったことがあった時に相談できる先生がいる。	78%	65%	81%	一人一人を大切にし、個に応じた指導や教育相談体制を整えている。
10 学校の活動では、体験（見る、聞く、触れる）や交流が取り入れられていると思う。	77%	72%	90%	講義型授業でなく、体験型・交流型の授業を教師が意識していることがわかる。
独自	84%		94%	研究テーマであるアウトプットしているかの問い合わせて教師、生徒とも9割近くが肯定的回答。

*学校ホームページには、普段の学校の様子を発信しています。また、緊急時の連絡の手段として情報発信することもあります。表題上部のQRコードからご覧ください。

文責 校長